

2017 年度

エコアクション21 環境経営活動レポート



活動期間

平成 29 年 (2017 年) 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 (2018 年) 3 月 31 日

エコアクション 21 登録・認証番号 0000088

発行日 2018 年 04 月 1 日

初回認証日 2004 年 12 月 22 日

更新日 2016 年 12 月 22 日

株式会社アラオ

2018 年 4 月 1 日

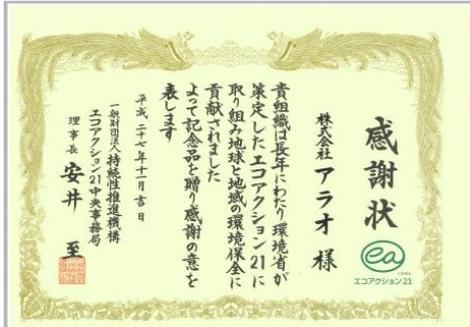
目次

1. ご挨拶.....	2
2. 環境経営方針.....	3
3. 組織概要.....	4
4. 環境経営システムの運営体制.....	5
5. 環境目標と実績.....	6
5.1 環境負荷の実績推移.....	7
5.2 3年環境経営目標.....	10
6. 環境負荷の詳細.....	11
6.1 本年度環境活動計画と評価.....	11
6.2 次年（2018年度）環境活動計画.....	12
7. 環境活動記録.....	13
7.1 近隣清掃活動.....	13
7.2 廃油流出事故訓練.....	13
7.3 設計開発部 メカ設計課活動記録.....	14
7.4 設備技術部 組立課活動記録.....	15
7.5 製造部 製造課活動記録.....	16
7.6 営業部 営業課活動記録.....	18
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果.....	19
9. 代表者による全体評価と来年への展望.....	21
9.1 取り組みへの評価.....	21
9.2 2018年度への展望.....	21

1. ご挨拶

株式会社アラオは、半導体製造装置を設計・製造する、エネルギー少消費型会社です。

地球環境の保全のために、2004年にエコアクション21を取得し、地球環境への負荷を少なくする事を心がけてまいりました。2015年には「EA21 認証・登録制度 10周年記念式典」にて長年のエコアクション活動に対して感謝状をいただきました。さらなる環境への取り組みを目指して、2017年度の環境活動レポートを発表いたします。



社是

顧客が満足する

T 技術、Q 品質、C コスト、D 納期 を提供する

企業理念

お客様を大切にし、お客様から期待される会社でありたい。

従業員を大切にし、従業員の夢をかなえる会社でありたい。

人を大切にし、品位ある会社でありたい。

衆知を結集し、「変化の時代」に対応できる会社でありたい。

2018年04月1日

株式会社アラオ

代表取締役社長 荒尾 淳

2. 環境経営方針

環境経営方針

株式会社アラオ 環境経営宣言

・私たちは省力機器の設計製作および金属機械加工事業を通じ、顧客が満足する技術 (Technology)、品質(Quality)、コスト(Cost)、納期(Delivery Date)を提供することを目指します。

株式会社アラオ 環境経営行動方針

- (1) 私たちは顧客要求の変化への対応として、省エネ製品、IoT、ロボットなどを使用した独自製品の開発を推し進めます。
- (2) 私たちは予算を認識し、効率的な業務遂行で適正利潤を継続確保します。
- (3) 私たちはミスを低減し、経営資源を100%有効活用します。
- (4) 私たちは機器の設計工程・部品の製作工程および営業活動を見直して、省資源化を実現し、環境にやさしい製品の提供に努めます。
- (5) 私たちは環境との共生・調和、環境への取り組みを最重要課題として認識し、全社一丸となって事業活動に取り組み、環境負荷を継続的に削減していきます。
- (6) 私たちは環境関連法令・規則・協定およびお客様の要求事項を遵守します。
- (7) 私たちは環境経営活動レポートを公表し、地域で環境活動を実施するなど、地域との環境コミュニケーションに積極的に取り組みます。
- (8) この環境経営方針を文書で全従業員及び関係者に周知するとともに社外にも開示します。

制定 : 平成30年4月1日

株式会社 アラオ 代表取締役社長

荒尾 淳 

※今年度より環境経営方針を制定して、環境と経営の両面からエコアクション21の活動を行います。

3. 組織概要

- 事業所名 および 代表者名
株式会社アラオ
代表取締役社長 荒尾 淳

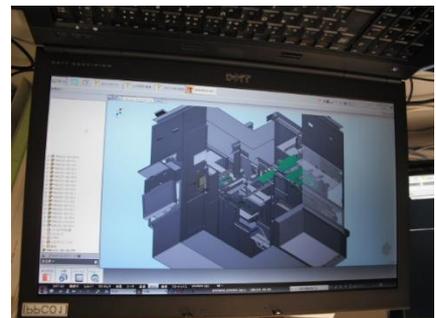


- 所在地
〒861-4144 熊本県熊本市南区富合町釈迦堂388

- 事業の概要
 - ◆ 半導体関連省力機械の設計・製作・改造・保守
 - ◆ 各種省力機器の設計製作
 - ◆ 省力機器制御ソフトウェア開発
 - ◆ 金属機械加工
 - ◆ 板金、溶接加工



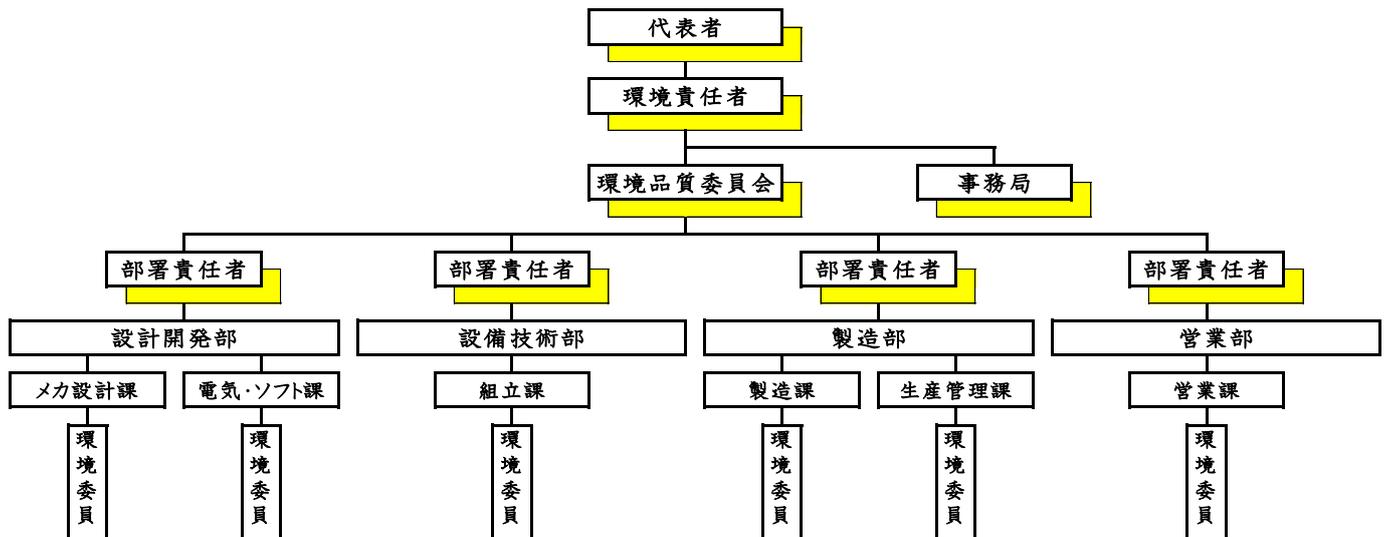
- 事業の規模 (2017年)
 - ◆ 年間売上高 8.9 億円
 - ◆ 従業員数 41 人
 - ◆ 床面積 2,068 m²
 - ◆ 敷地面積 6,604 m²



- 環境管理責任者氏名 および 担当者連絡先
 - ◆ 代表責任者 代表取締役社長 荒尾 淳
 - ◆ 環境管理責任者 設計開発部 部長 永野 久徳
 - ◆ 環境担当者 EA21 推進事務局 船津 誠司
 - ◆ 連絡先
 - 電話 096-358-7010
 - FAX 096-358-8045
 - URL <http://www.araotech.jp/>
 - e-mail arao@araotech.co.jp



4. 環境経営システムの運営体制



- ◆ 代表者
 - 1 環境責任者をはじめ必要な責任者の任命
 - 2 EA21 の構築、運用、維持に必要な経営資源の準備
 - 3 環境経営方針の制定
 - 4 EA21 全体の見直しを行い、必要に応じて改定を指示
- ◆ 環境責任者
 - 1 経営資源の合理化、効果的な運用を図り、環境品質委員会を運営する。
- ◆ 環境品質委員会
 - 1 環境責任者主催で月 1 回開催
- ◆ 事務局
 - 1 環境責任者の補佐
 - 2 EA21 に関する実務全般
- ◆ 部署責任者
 - 1 各部署内の環境活動の指導および実行責任
- ◆ 設計開発部・設備技術部・製造部・営業部 環境委員
 - 1 各部署内における環境活動実行委員

5. 環境目標と実績

項目	入力年	2017		2017年度			排出係数=九州電力(2013年度) 0.613kg-CO ₂ /kWh		
	西暦 平成	2013年度 25年	2017年度 29年	目標値	実績値	達成率	基準年比較	削減率	
管理実施項目	単位	実績値	目標値	実績値	(目標/実績)	評価	削減率	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	224,675,566	229,866,000	186,013,000	123.58%	○	82.79%	○	
	売上当(kg/百万円)	534.94	341.46	209.00	163.38%	○	39.07%	○	
使用電力量	kWh	347,100.00	351,990.00	282,300.00	124.69%	○	81.33%	○	
	売上当(kWh/百万円)	826.43	522.88	317.19	164.85%	○	38.38%	○	
ガソリン消費量	L	5,284.43	6,008.00	5,583.38	107.61%	○	105.66%	×	
	売上当(L/百万円)	12.58	8.92	6.27	142.26%	○	49.83%	○	
灯油消費量	L	0.00	58.20	0.00	0.00%	○	0.00%	○	
	売上当(L/百万円)	0.00	0.08	0.00	0.00%	○	0.00%	○	
一般廃棄物 (塵芥のみ)	Kg	445	462	432	106.88%	○	97.08%	△	
	売上当(kg/百万円)	1.06	0.69	0.49	140.82%	○	46.25%	○	
産業廃棄物 (廃油・液・プラ)	Kg	3,760	5,674	5,735	98.94%	△	152.53%	×	
	売上当(kg/百万円)	8.95	8.43	6.44	130.90%	○	71.94%	○	
紙使用量	A4枚数	111,000	79,540	82,000	97.00%	△	73.87%	○	
	売上当(枚/百万円)	264.29	118.16	92.13	128.25%	○	34.86%	○	
水使用量	立方米	493	536	511	104.97%	○	103.65%	×	
	従業員当(m ³ /人)	12.33	12.19	12.46	97.83%	△	101.10%	×	
売上高	百万円	420	673	890	132.21%	○	211.90%	○	
	従業員当(百万円/人)	10.50	15.30	21.71	141.90%	○	206.76%	○	
社員数	人	40	44	41	93.18%	△	102.50%	○	
		基準年	2017年・環境実績総合評価						

評価基準(%)	0-89	90-99	100-
	○	△	×

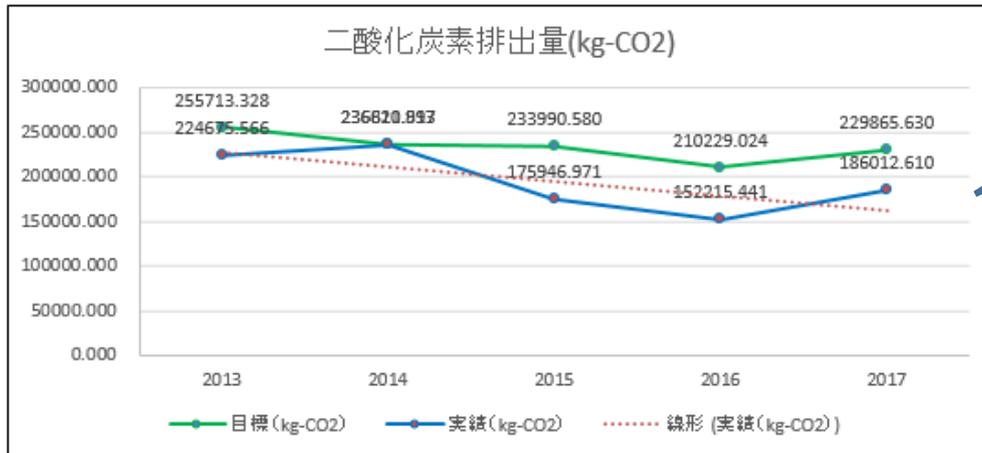
※1 100%以上="○"

2017年度は売上高が過去最高となり、基準年(2013年度)に比較すると2倍以上の伸びを示しています。それに反して、二酸化炭素排出量は基準年の82%にとどまっており、数々の省エネ対策が功を奏している模様です。中でも電気使用量の削減量が大きく貢献しています。水銀灯や蛍光灯をLEDに交換したことや工場のエアコンを省エネタイプに交換した成果が見て取れます。

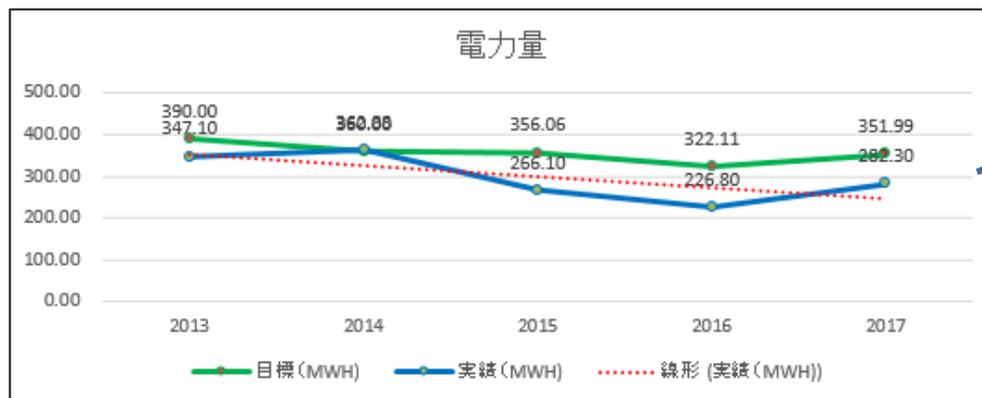
ガソリン消費量、産廃、水使用量は売上高に比例した形で増加傾向となっていますが、売上当たりの比率ではどれも減少しており効率のよい活動ができていると思われれます。

5. 1 環境負荷の実績推移

それぞれの項目の目標と実績値の過去5年分のデータです。



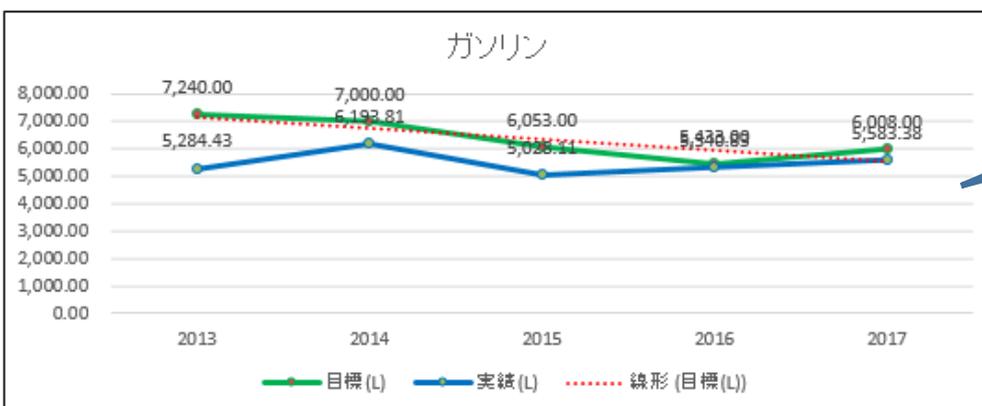
123%達成!



124%達成!

取り組み内容

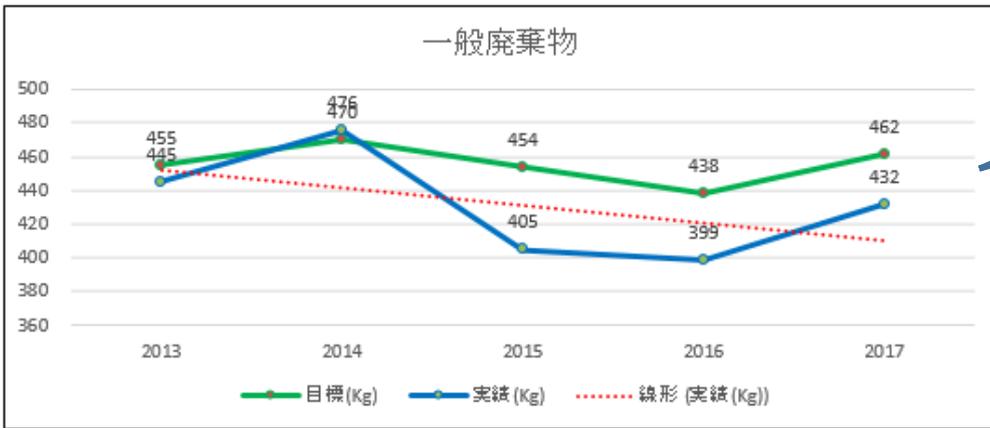
- ・工場や事務所内の蛍光灯を全てLED化
- ・省エネエアコンへの切替え
- ・3か月に一度、エアコンの簡易点検実施



107%達成!

取り組み内容

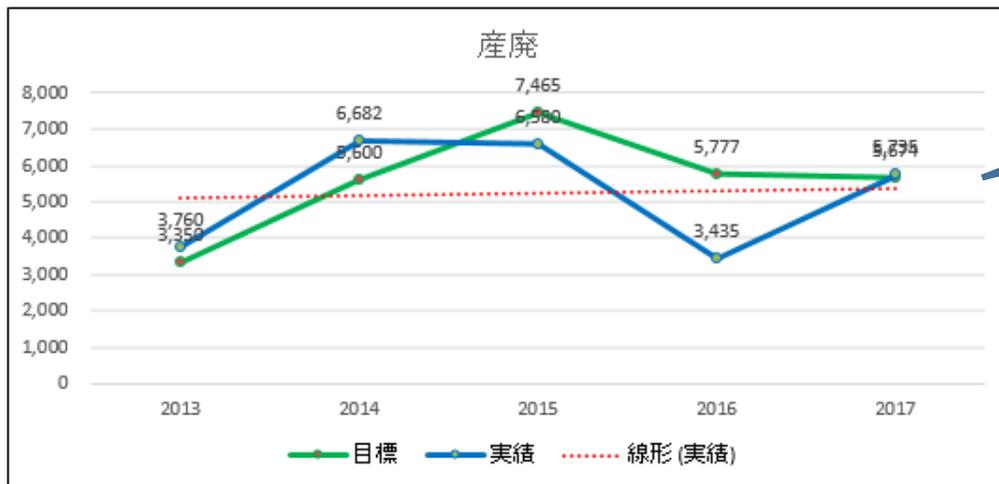
- ・運転記録簿による燃費計測
- ・社用車を低燃費車へ入替え



106%達成！

取り組み内容

- ・ごみの分別徹底
- ・書類や紙の省力化・リサイクル利用推進

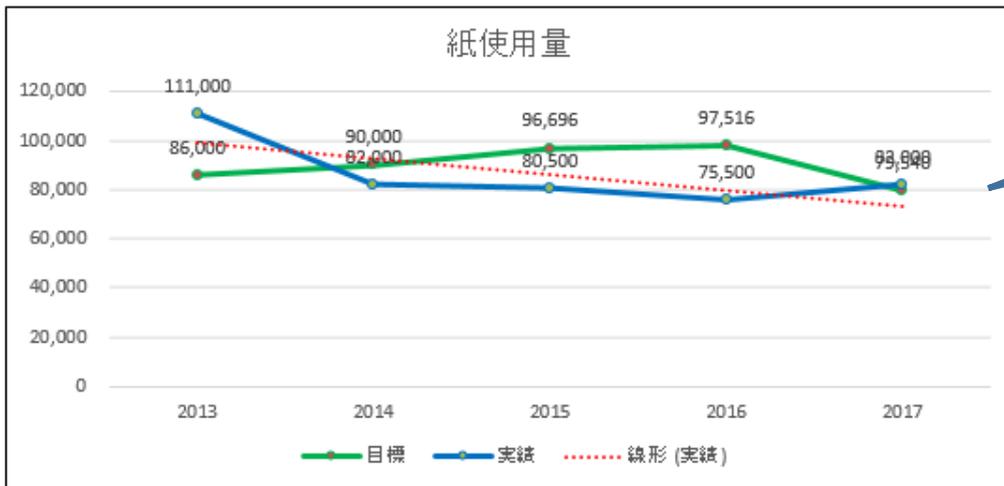


98%未達成！

取り組み内容

- ・工程内不良削減
- ・再資源化

※過去最大売上により生産量が拡大し、廃棄物が増加してしまいました。

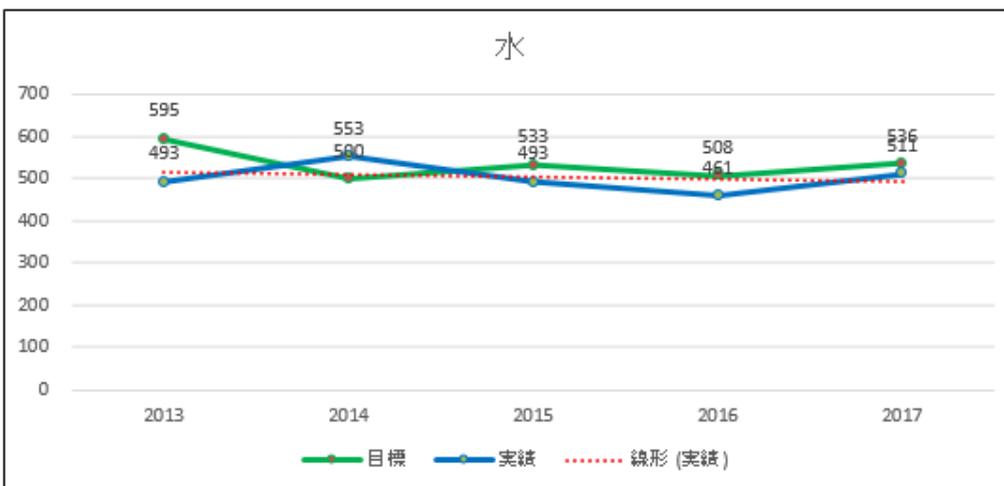


97%未達成!

取り組み内容

- ・ペーパーレス化推進
- ・両面印刷／集約機能の活用

※過去最大売上により生産量が拡大し、紙使用量が増加してしまいました。



104%達成!

取り組み内容

- ・洗浄作業を貯水して行う
- ・実用に耐えられる程度に元栓を絞る

産廃と紙使用量のみ目標未達成となりました。今後は不要物を発生させない工夫と、より効率的な業務改善を行うことで環境負荷軽減を目指していきます。

5. 2 3年環境経営目標

環境経営方針		実行内容	目標値		
			2018	2019	2020
製品開発	(1)私たちは顧客要求の変化への対応として、省エネ製品、IoT、ロボットなどを使用した独自製品の開発を推し進めます。	「新製品開発プロジェクト」にて新製品開発を推進し、全社一丸となって毎年1件以上の製品を市場に送り出します。	1件以上	1件以上	1件以上
経常利益	(2)私たちは予算を認識し、効率的な業務遂行で適正利潤を継続確保します。	営業、設計、加工、組立それぞれの工程での業務での効率化を図り、高利潤体制を構築します。	5.0%以上	7.5%以上	10%以上
不良率	(3)私たちはミスを低減し、経営資源を100%有効活用します。	設計、加工それぞれの工程での不良品を徹底的に削減します。	設計 4.0% 以下	設計 3.9% 以下	設計 3.8% 以下
			製造 0.6% 以下	製造 0.59% 以下	製造 0.57% 以下
省資源化	(4)私たちは機器の設計工程・部品の製作工程および営業活動を見直して、省資源化を実現し、環境にやさしい製品の提供に努めます。	総売り上げに占める、設計・部品製作・営業活動の工数削減を行います。	1.0% 削減	2.0% 削減	3.0% 削減
環境負荷	(5)私たちは環境との共生・調和、環境への取り組みを最重要課題として認識し、全社一丸となって事業活動に取り組み、環境負荷を継続的に削減していきます。	紙、ゴミ、電気、水などの環境負荷を減らし、CO2排出量削減に努めます。	1.0% 削減	2.0% 削減	3.0% 削減
法令・規則・客先要求等	(6)私たちは環境関連法令・規則・協定およびお客様の要求事項を遵守します。	法令などはもちろん客先からの要望に100%応えられることを目指します。	100% 達成	100% 達成	100% 達成
地域貢献活動	(7)私たちは環境経営活動レポートを公表し、地域で環境活動を実施するなど、地域との環境コミュニケーションに積極的に取り組みます。	地域に根差した企業となるべく、さまざまな地域貢献活動を行います。	1件以上	1件以上	1件以上

6. 環境負荷の詳細

6. 1 本年度環境活動計画と評価

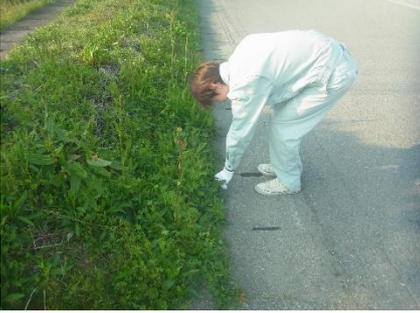
	項目	目標達成手段	計画案	評価
1	環境システム見直し	EA21の指針に沿い、見直す	見直し	○
2	二酸化炭素排出量削減	電灯やOA機器の節電	毎日実施	○
			昼休み中の消灯、パソコン電源Off	○
		冷房27度、暖房20度の設定	毎月パトロールで遵守状況確認	△
		冷暖房機器フィルターを年2回清掃	年2回実施	○
3	廃棄物の削減	ゴミの分別の周知徹底	可燃物、不燃物などの仕分け	◎
		資源ごみはリサイクルして活用	コピー紙、新聞紙などはリサイクル	◎
4	紙使用の削減	電子文書の活用	社内保存用資料は電子化を推進	○
5	水使用の削減	節水の表示と周知徹底	節水表示で個人の意識向上	◎
			実用に耐えられる程度に元栓を絞る	◎
6	環境法令の遵守	マニフェスト発行、法令遵守の見直し	マニフェスト発行、法令遵守の見直し	◎
7	近隣の環境維持	環境清掃の実施	3月に実施	◎
8	環境コミュニケーション	環境レポートの配布	当社ホームページに環境活動レポートを掲載	◎
9	環境事故想定訓練	油などの流出想定訓練	3月に実施	◎
10	環境データの収集	毎月電力、水、紙などの消費量測定	毎月始めに収集	◎
11	グリーン購入推進	グリーン購入の推進	全体に占めるグリーン購入割合の向上	△
12	設計工程の改善	メカ図面不良件数の削減	流出図面不良率5%以下目標	◎
		装置製作ロスを“ゼロ”にする	電気不具合件数2件/月以内目標	○
13	組立工程の改善	組立作業の効率化	見積工数作業を80%で実現化	◎
14	製造工程の改善	加工不良の削減	加工不良率0.75%以下目標	◎
			ヒューマンエラーの削減	○
		加工機械の稼働時間向上	MCの無人稼働推進	○
			浮上油除去の自動化装置導入	◎
			部品加工の設計改善提案提出	◎
		単品売り上げ拡大	単品売り上げ月150万円以上目標	◎
15	営業の改善	客先クレームの削減	加工個数に対するクレーム数0.05%以下	○
		コピー使用枚数削減	前年実績の3%削減目標	◎
		見積件数アップ	客先面談を150人以上/月行う	△

6. 2 次年（2018年度）環境活動計画

	項目	目標達成手段	計画案
1	環境システム見直し	EA21の指針に沿い、見直す	見直し
2	二酸化炭素排出量削減	電灯やOA機器の節電	毎日実施
		冷房27度、暖房20度の設定	昼休み中の消灯、パソコン電源Off
		冷暖房機器フィルターを年2回清掃	毎月パトロールで遵守状況確認 年2回実施
3	廃棄物の削減	ゴミの分別の周知徹底	可燃物、不燃物などの仕分け
4	紙使用の削減	電子文書の活用	コピー紙、新聞紙などはリサイクル
5	水使用の削減	節水の表示と周知徹底	社内保存用資料は電子化を推進
6	環境法令の遵守	マニフェスト発行、法令遵守の見直し	節水表示で個人の意識向上
7	近隣の環境維持	環境清掃の実施	マニフェスト発行、法令順守の見直し
8	環境コミュニケーション	環境レポートのHP掲載	10月に実施
9	環境事故想定訓練	油などの流出想定訓練	当社ホームページに環境レポートを掲載
10	環境データの収集	毎月電力、水、紙などの消費量測定	10月に実施
11	設計工程の改善	重大不具合図面流出削減	毎月始めに収集
		電気購入品発注ミス削減	不具合チェックシートの運用と対策の検討
12	組立工程の改善	部品破損削減	不具合が発生した際に会議を行い検討
13	製造工程の改善	単品部品加工利益率向上	破損事例と対策を記録し再発防止する
			加工方法改善とMC無人稼働拡大
		加工不良の低減	加工プログラム入力時間削減 段取り替え、取付・取外し、寸法測定の改善 準備作業と運搬作業の改善
14	営業の改善	売上総利益(粗利率)向上	ヒューマンエラーの削減と標準化
			クレーム流出再発防止の徹底遵守
			1M以上は業者へ見積
			取引先担当者との面談増加

7. 環境活動記録

7. 1 近隣清掃活動



7. 2 廃油流出事故訓練



① ドラム缶を倒す



②吸着マットを敷く



③流出防止板を挿入する



④土嚢を投入



⑤水量追加



⑥側溝の流出確認



⑦油升内の廃油汲み取り



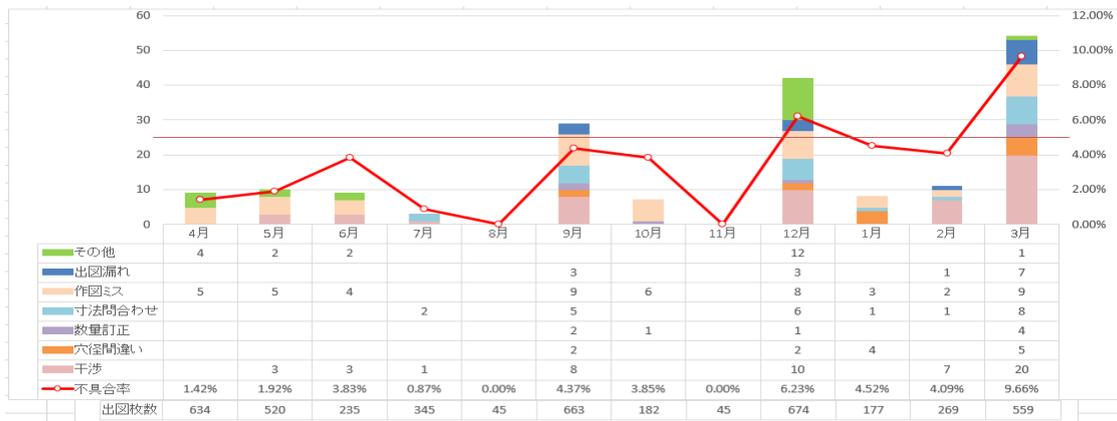
⑧訓練の総評

7.3 設計開発部 メカ設計課活動記録

メカ設計課では、案件ごとに発生してしまう図面不良による損失の削減の為データ収集から不良削減に至るまでの活動を行いました。
その活動実績を報告します。

- 1) 活動テーマ [不具合図面出図による製造ロスの低減]
- 2) 活動目標 [流出不具合 5%以下 (リピート案件は含まず)]
- 3) 活動結果

- ① 各案件の不良統計を取り、毎月検収があがったものの合計出図枚数と不具合詳細を集計し、課内でディスカッションを行いました。



不具合数、不具合率の年間統計

	出図枚数	干渉	穴径間違い	数量訂正	寸法間合わせ	改善要望	作図ミス	出図漏れ	その他	合計	不具合率
4月	634					9	5		4	9	1.42%
5月	520	3					5		2	10	1.92%
6月	235	3					4		2	9	3.83%
7月	345	1			2					3	0.87%
8月	45									0	0%
9月	663	8	2	2	5	14	9	3		29	4.37%
10月	182			1			6			7	3.85%
11月	45									0	0%
12月	674	10	2	1	6	24	8	3	12	42	6.23%
1月	177		4		1	8	3			8	4.52%
2月	269	7			1		2	1		11	4.09%
3月	559	20	5	4	8	20	9	7	1	54	9.66%
年間合計	4348	52	13	8	23	75	51	14	21	182	4.19%

年間創出図枚数及び各設計不良詳細

- ② 総合結果としては、4.19%と目標値の5%以下なので達成はしていますが、月別統計で見ると目標値を上回っている月もありました。
不具合詳細を見てみると、干渉と作図ミス、寸法間合わせが目立ちました。

4) 今後の対策

次年度では上記3つの不具合を重点的に削減するための活動を行っていく予定です。

7. 4 設備技術部 組立課活動記録

- 1) 活動テーマ：見積り工数内で作業する
- 2) 活動目標：工数達成 80%以上
- 3) 活動目的：

見積り工数を把握することにより組立や調整等の作業をどれだけで終わらせないといけないかという意識を持つことができ無駄な作業を減らす。また効率の良い作業を考える事が必要になり個人のスキルアップも図れる。残業等も少なくなることで電気の使用量削減等の効果も見られる

4) 具体的な対策と内容

①現状の作業した工数を確認する。(環境委員)

装置の見積り工数を確認して作業に使用できる工数を意識するようになりました。

②工数オーバーしたものに対して対策を実施する(装置担当者主体で)

工数オーバーしたものに対して検討及び対策をすることで作業効率アップを図ることが出来ました。

③見積り工数担当者シートを作成(見積りをした人が記入する)

組立として見積りをした内容が分かるようにシートを作成して見積り工数を記入するようになりました。

④作業工番早見票の作成(環境委員)

日報の打ち間違いをなくす為にパウチにて小型の資料を作成し全員に配布しました。

⑤外注用の作業日報の形式変更(環境委員)

外注用日報にて日報に作業工番、区分等の記入欄がなく毎日の作業が分かりづらかったので日報の変更をしました。

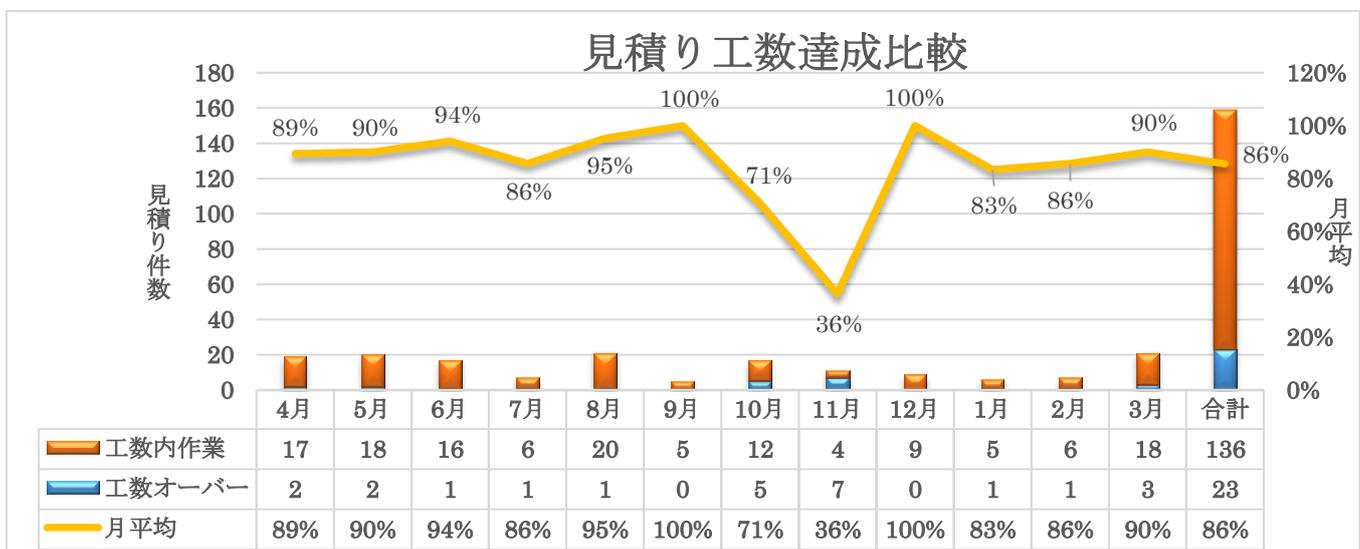
⑥見積り時の注意点をまとめた資料の作成(打合せ後環境委員にて資料をまとめる)

人により見積りの工数が大幅に違ったりするので資料を作成し何を考えればいいのかを統一しました。

5) 結果

目標 80%以上にたいして 86%となり目標達成しました。

(136 / 159 件達成)



7. 5 製造部 製造課活動記録

1) 加工不良の削減

- ・ 2017 年度の加工不良率は 0.57% の実績で、目標 ($\leq 0.75\%$) を達成した。(図 1 参照)
- ・ 加工不良の発生原因はヒューマンエラーが主で、慢性的に発生している。2017 年度はエラー事例分析から、図面確認ミス防止の対策を行った。

(1) 不良発生の根本原因追及と再発防止

① 不適合品報告書の作成

- ・ 客先クレームおよび社内発生した重大不良について、根本原因を追求し再発防止の対策を行い、作業の標準化を図った。
- ・ 2017 年度の不適合品報告書は、7 件作成し情報の共有化を図った。

② 検査工程での発見不良のデータ集計とフィードバック

- ・ 加工忘れ、寸法公差外れ等々の発見不良を毎月集計し、加工現場へフィードバックを行った。

(2) ヒューマンエラーの対策

① 図面がらみのミス防止に蛍光ペンチェック

- ・ 加工工程ごとに蛍光ペンの色分けを行い、加工を行う箇所に色付けを行い、図面確認ミスおよび見落とし等の、図面がらみのミス防止対策を行った。

② 教育訓練と技能検定

- ・ 熊本県職業能力開発協会のものでづくりマスターの方から、汎用フライ盤の教育訓練を計画し実施した。

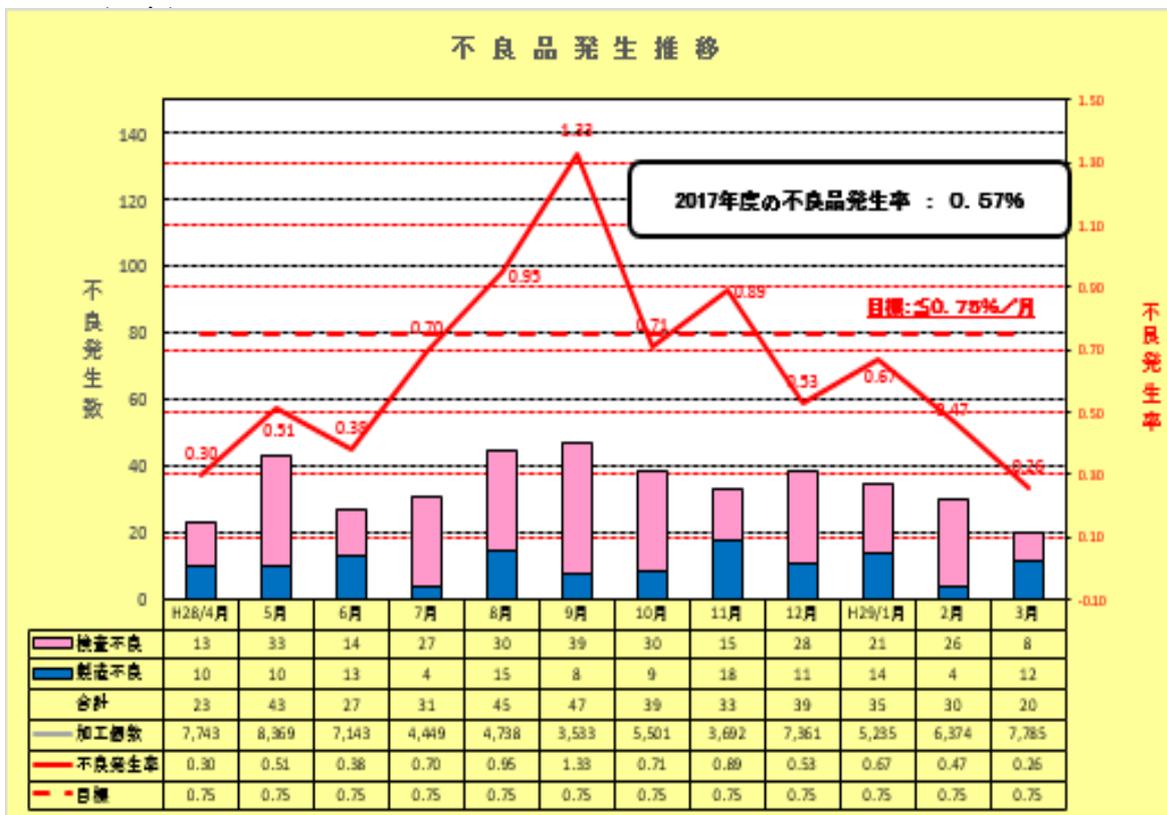


図1. 2017年度の部品加工の不良品発生

2) 加工機械の稼働率向上

・2017年度の実稼働率は目標の75%に対し、実績は64%で未達成だった。(図2参照)

(1) 加工プログラムの入力時間の削減

・設計開発から製造へCAD設計者を1名異動し、加工プログラムの入力時間の短縮活動を行った。

(2) 加工機械の無人稼働

・昼休時間および終業後の夜間および休日のMC無人稼働時間を集計し、機械が稼働できるように活動の促進を行った。(図3参照)

(3) 浮上油除去の時間短縮

・クリーナーの導入を2台展開した。

(4) 単品の売上拡大

・F社からボールプレートを受注し量産加工を開始した。

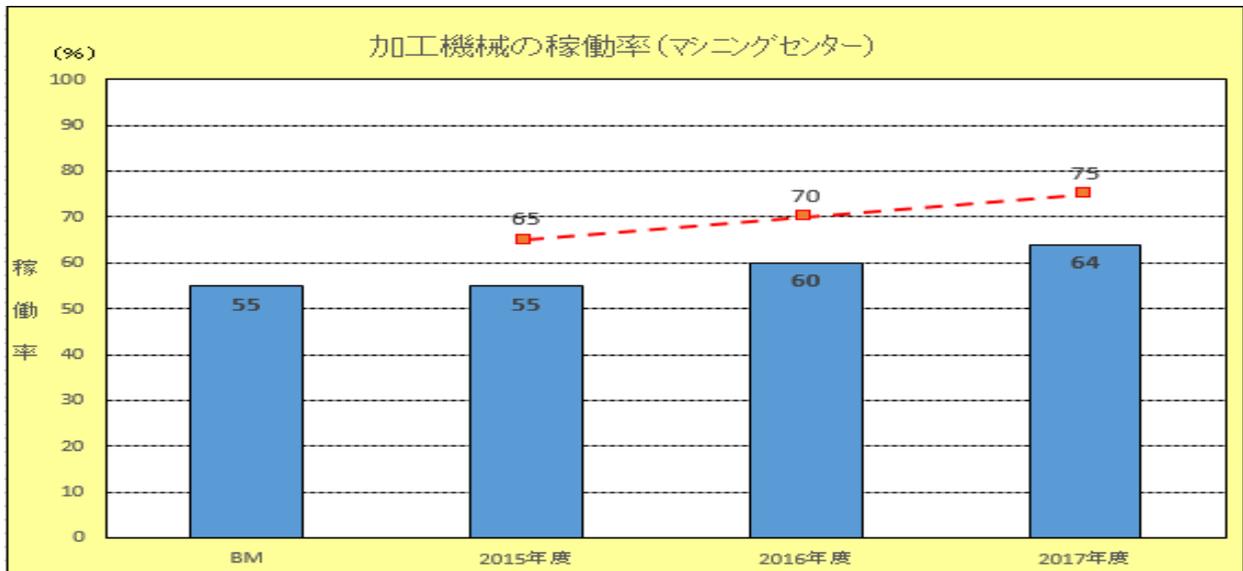


図2. 加工機械の稼働率

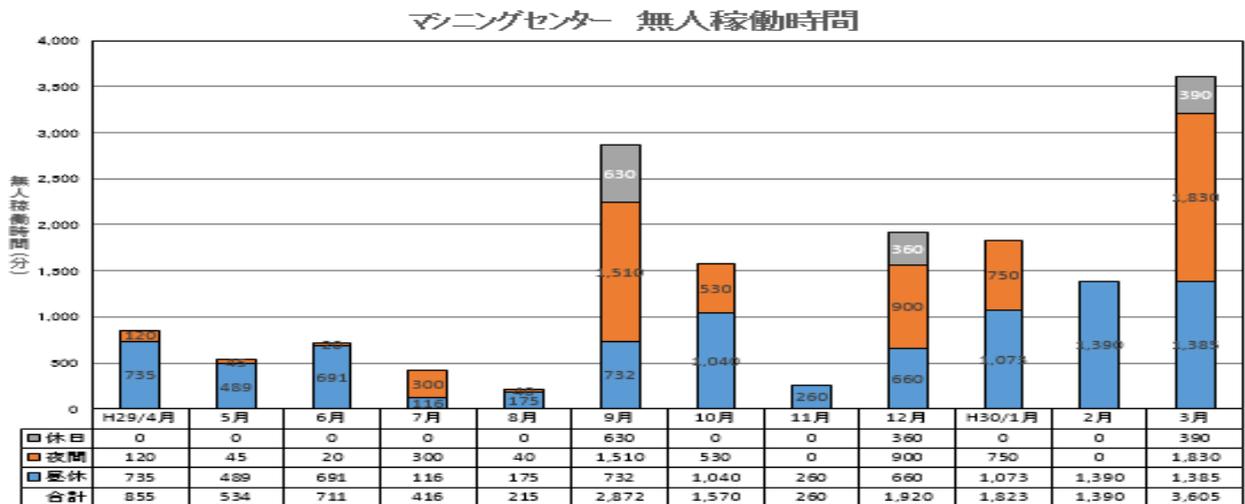


図3. 加工機械の無人稼働時間

7. 6 営業部 営業課活動記録

1) 長期目標：見積り件数アップについての結果報告

ねらい：見積り件数を増やす事により、受注件数が増え、結果的に売上げアップに繋がる。

【具体的対策】

客先担当者との面談数：100人/月×1人の目標として活動を行い、人脈による見積り依頼アップをねらう。

【結果】

目標：220件以上/月平均に対し、実績：196件となった。

【今後の対策】

更に見積り件数アップのためには、新規取引先を増やす必要がある。

来期は毎月2件（山本B：1件、田上：1件）以上の訪問を目標に活動を行う事と必要。



2) 長期目標：コピー枚数削減についての結果報告

ねらい：コピー枚数の減らす事により備品消費率を削減し省資源を行う。

【具体的対策】

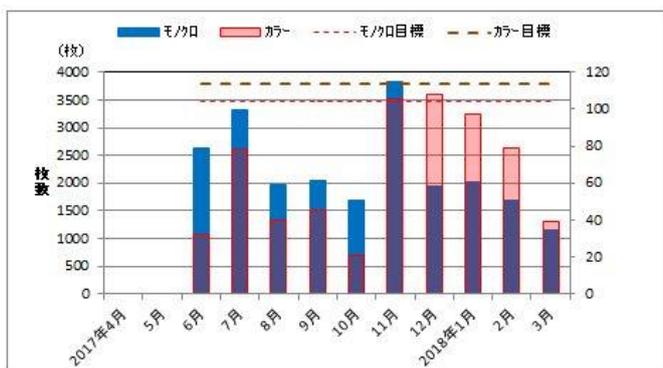
- ・F社用注文書を印刷しない・見積り図面印刷 2~4アップ & 両面コピー
- ・PCから直接FAX・電子請求書印刷を A4:2枚→A3:1枚

【結果】

目標：前年度実績枚数より3%削減/月平均に対し、モノクロ:47.4%、カラー:52.6%の結果となり大幅に目標を上回る結果となった。

【今後の対策】

来期も引き続き上記対策に心掛け、更にデータでのやり取り方法を検討していく。



8. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果

関連法規の遵守状況を 10 月にチェックしました。結果問題はありません。

なお、関係機関や近隣住民の方からの法律違反の訴え、苦情や訴訟等は発生していません。産業廃棄物については、廃棄時にマニフェストを完全に発行しています。

環境関連法令等の遵守チェックリスト

最新情報の確認：<http://law.e-gov.go.jp/>

法令等の名称		該当条項	適用される要求事項	アラオの遵守状況	
大気	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律		特定製品（業務用エアコン、冷蔵庫等）の整備・廃棄時のフロン回収・破壊	社内エアコンの定期点検、および簡易点検実施中	○
排水	水質汚濁防止法 排水基準を定める省令	第 2 条	特定施設	該当施設なし (上水は生活用水のみ使用)	—
排水	下水道法	第 10 条	下水道への放流	該当施設なし (上水は生活用水のみ使用)	—
		第 12 条	除外施設の設置		
悪臭	悪臭防止法	第 7 条	規制基準の遵守義務	該当施設なし	—
		第 10 条	事故時の措置と報告		
		第 11 条	自治体による測定		
騒音	騒音規制法	第 5 条	特定工場、特定施設を設置している事業所は規制基準を遵守	騒音は規定値内	○
		第 6 条	特定施設（施工令別表 1）の届出	コンプレッサー 11Kw 2 台 エアコン室外機 7.5Kw 13 台	○
		第 8 条	特定施設の変更届（騒音が増加しない場合はこの限りではない）	（届出済）	○
振動	振動規制法	第 5 条	特定工場、特定施設を設置している事業所は規制基準を遵守	コンプレッサー 11Kw 2 台 (届出済)	○
		第 6 条	特定施設（施工令別表 1）の届出		
廃棄物・リサイクル	循環型社会形成推進基本法	第 11 条	事業者の債務（廃棄物になることの抑制）		○
廃棄物・リサイクル	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	第 7 条	一般廃棄物処理業者は市町村長の許可が必要	許可証の写しを入手	○
		第 14 条	産業廃棄物処理業者は都道府県知事の許可が必要	許可証の写しを入手	○
		第 15 条	保管基準の遵守（表示、衛生管理等）	廃棄物置き場に表示設置	○
		施行令 8 条	表示：60cm 角以上、種類、氏名、連絡先	○	○
			許可業者に委託（一般廃棄物は許可証の確認）	紙屑、その他	○
			許可業者に委託（産業廃棄物は契約）	廃油、廃プラ	○
	多量排出事業者の削減計画提出・報告	○	○		
	マニフェスト発行・返送遅延時の届出	○	○		

			マニフェスト交付状況の報告 もっぱら再生利用を目的の収集・運搬 業者に委託	熊本市へ報告 紙、鉄くず	○ ○
	資源の有効な利用の促進に関する法律 リサイクル法	第4条	パソコンのリサイクル化	パソコン	○
	特定家庭用機器再商品化法	第6条	TV・洗濯機・冷蔵庫・エアコンの破棄	TV、冷蔵庫、エアコンの適正 廃棄を実施する	○
	使用済自動車の再資源化等に関する法律	第5条	自動車の所有者の責務 自動車の廃棄・使用済自動車の引渡義務	社用車はリース車のため非 該当	○
化学 物質 ・ 危 険 物	特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	第2条	特定化学物質 （質量1トン以上、従業員21名以上）	PRTRの対象物質（ステンレスクリーナー）の使用は僅少	○
	毒物及び劇物取締法	第2条	毒物または劇物の取扱	ステンレスクリーナー使用量が僅少	○
危 険 物	高圧ガス保安法	第9条の2	圧縮アセチレンガス 高圧ガスの消費	溶接用の高圧ガス使用量が 僅少	○

9. 代表者による全体評価と来年への展望

9. 1 取り組みへの評価

環境目標に対しては、ほぼ目標達成をしており、環境に対して全社員の高い意識が継続していることとして高く評価します。また、2017年度は2016年度に比べ高い売上を達成でき、適正利潤を得ることができました。それにより単位売上当たりの目標達成率が高水準になり、環境と経営の両面からのエコアクション 21活動の重要性が確認できました。各部署の環境改善活動に対しては概ね目標を達成しています。一部の未達成項目に対しては、その原因を明確にし、その対策を講じ、部署全員で目標達成できる様継続努力が必要です。環境関連法規の遵守については、チェックリストに基づき細かくチェックできており、100%遵守できています。全社としての環境活動、全社員参加の環境活動が継続実施できるよう今後も取組んでゆきます。

9. 2 2018年度への展望

熊本県は「熊本地震からの**創造的復興**」をスローガンに経済活動を推進しています。そのため大変活発な経済活動が行われ、弊社においても昨年度に引き続き業務量も高水準に展開される見込みです。そこで今年度も、経営資源の100%有効活用を経営方針とし、また仕事の完成度を高め一回目の取り組みで業務完結することにより、さらなる高水準の環境経営を実施し、環境適合と増収/増益の両立をめざします。

EA21 2017年度（平成29年度） 環境活動レポート

株式会社アラオ



住所 : 〒861-4144
熊本県熊本市南区富合町釈迦堂388



電話 : 096-358-7010



FAX : 096-358-8045

発行日 : 2018年（平成30年）4月1日

発行者 : 環境品質委員会

ご意見、ご感想は弊社のホームページよりお送りください。

<http://www.araotech.jp/>